

8 . 河道特性



置賜橋付近
(米沢市)

山形工事

吾妻山系西吾妻山に発した最上川上流部は、河床勾配が急で河床には巨岩が点在し、流れが浅く小さな滝とその下流には淵が存在し、ステップアンドプール状となっている。

その後羽黒川、天王川等を合流させながら米沢盆地を流下するが、この付近では河床が比較的大きなレキ河床で、交互砂州や複列砂州が発達し、1/300程度の河床勾配となっており、河床は安定している。



長井大橋付近
(長井市)

山形工事

鬼面川を合流して流路を北西に向け、河井山狭窄部を貫けると置賜白川と合流し、置賜野川、草岡川等を合流させながら長井市内を流下する。この付近では交互砂州が発達しており、瀬と淵が交互に存在するが淵としては小規模であり、河床はやや洗掘傾向にある。

それを過ぎると荒砥狭窄部と呼ばれる山間部に入る。この辺りは所々岩河床が露出し、特有な景観を呈している。



谷地橋付近
(河北町)

山形工事

荒砥狭窄部を貫け、長崎地点下流で須川を合流させる辺りから、山形県の文化・経済の中心部である山形盆地が広がっており、川幅が広く砂州を伴い蛇行しており、瀬と淵が交互に現れる。河床勾配は $1/800 \sim 1/1,500$ へと変化しており、河床は洗掘傾向にある。



大淀狭窄部
三ヶ瀬橋、
長島橋付近
(村山市)

山形工事

山形盆地を過ぎると大淀狭窄部に流入する。岩盤段丘の形成が見られるこの区間は“暮点”、“三ヶ瀬”、“隼”と呼ばれる瀬があり、古来舟運の三難所として知られてきた。

河岸段丘が発達した区間であり、河道は大きく蛇行しているのが特徴であり、川幅は小さく瀬には、岩が露呈している。河床は大きくうねっており、瀬と淵の間にはとろ場が存在しており河床は安定している。



最上峡
(戸沢村)

新庄工事

戸沢村に入り角川を合流した辺りから、最上峡と呼ばれる山間部に流入する。周囲の滝や河床の露出しており、最上川を代表する峡谷景観を形成し、舟下りの観光地としても名高い。



庄内橋付近
(左岸：余目町
右岸：松山町)

酒田工事

最上峡を貫け庄内平野を悠然と流れる最上川は、酒田市において日本海に注ぐ。扇状地となり河床勾配は1/1,000から1/3,000へと緩くなり、河床は交互砂州が発達し顕著な瀬と淵が存在せず、平瀬が連続し、全体的に河床低下の傾向にある。